



シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001001	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	大平 晃久		
授業担当教員名(科目責任者)	大平 晃久		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大平 晃久		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]302		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィサー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	<p>第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出</p> <p>第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション</p> <p>第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出</p> <p>第14回 最終レポートの修正</p> <p>第15回 最終レポートの提出</p>
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001002	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	北村 右一		
授業担当教員名(科目責任者)	北村 右一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	北村 右一		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教]13講義室		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出 第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション 第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出 第14回 最終レポートの修正 第15回 最終レポートの提出
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティ40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001003	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	古賀 雅夫		
授業担当教員名(科目責任者)	古賀 雅夫		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	古賀 雅夫		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教]21講義室		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出 第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション 第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出 第14回 最終レポートの修正 第15回 最終レポートの提出
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	

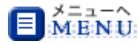


Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバスイ覧 > シラバス参照

Login User 本田 垂紀 『全学教育』

タイムアウトまでおよそ1797秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001004	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	星野 由雅		
授業担当教員名(科目責任者)	星野 由雅		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	星野 由雅		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教]23講義室		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	<p>第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出</p> <p>第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション</p> <p>第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出</p> <p>第14回 最終レポートの修正</p> <p>第15回 最終レポートの提出</p>
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

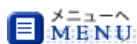


学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001005	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	長島 雅裕		
授業担当教員名(科目責任者)	長島 雅裕		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	長島 雅裕		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教]22講義室		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出 第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション 第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出 第14回 最終レポートの修正 第15回 最終レポートの提出
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

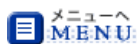


学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001006	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	三上 次郎		
授業担当教員名(科目責任者)	三上 次郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	三上 次郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教]24講義室		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	<p>第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出</p> <p>第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション</p> <p>第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出</p> <p>第14回 最終レポートの修正</p> <p>第15回 最終レポートの提出</p>
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001007	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	菅野 弘之		
授業担当教員名(科目責任者)	菅野 弘之		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	菅野 弘之		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教]23講義室		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィサー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出 第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション 第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出 第14回 最終レポートの修正 第15回 最終レポートの提出
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティ40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	





タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

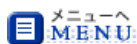


学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001008	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	針貝 綾		
授業担当教員名(科目責任者)	針貝 綾		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	針貝 綾		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教]32講義室		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	<p>第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出</p> <p>第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション</p> <p>第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出</p> <p>第14回 最終レポートの修正</p> <p>第15回 最終レポートの提出</p>
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



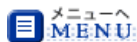
参照URL

学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001009	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	畑 孝幸		
授業担当教員名(科目責任者)	畑 孝幸		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	畑 孝幸		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教]24講義室		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出 第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション 第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出 第14回 最終レポートの修正 第15回 最終レポートの提出
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

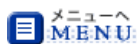


学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001010	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	藤木 卓		
授業担当教員名(科目責任者)	藤木 卓		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤木 卓		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]103		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィサー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出 第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション 第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出 第14回 最終レポートの修正 第15回 最終レポートの提出
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



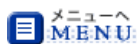
参照URL

学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001011	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	鈴木 保巳		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 保巳		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 保巳		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]104		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出 第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション 第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出 第14回 最終レポートの修正 第15回 最終レポートの提出
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001012	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	内野 成美		
授業担当教員名(科目責任者)	内野 成美		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	内野 成美		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教]25講義室		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィサー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出 第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション 第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出 第14回 最終レポートの修正 第15回 最終レポートの提出
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001013	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	笹山 龍太郎		
授業担当教員名(科目責任者)	笹山 龍太郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	笹山 龍太郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教]32講義室		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出 第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション 第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出 第14回 最終レポートの修正 第15回 最終レポートの提出
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

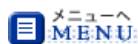
タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001014	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	楠山 研		
授業担当教員名(科目責任者)	楠山 研		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	楠山 研		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]203		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出 第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション 第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出 第14回 最終レポートの修正 第15回 最終レポートの提出
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	





シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



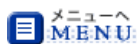
参照URL

学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001015	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	小原 達朗		
授業担当教員名(科目責任者)	小原 達朗		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小原 達朗		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教]42講義室		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	<p>第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出</p> <p>第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション</p> <p>第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出</p> <p>第14回 最終レポートの修正</p> <p>第15回 最終レポートの提出</p>
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001016	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	西澤 昭		
授業担当教員名(科目責任者)	西澤 昭		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西澤 昭		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教]33講義室		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィサー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出 第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション 第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出 第14回 最終レポートの修正 第15回 最終レポートの提出
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

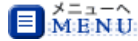


学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001017	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	富山 哲之		
授業担当教員名(科目責任者)	富山 哲之		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	富山 哲之		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]204		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	<p>第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出</p> <p>第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション</p> <p>第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出</p> <p>第14回 最終レポートの修正</p> <p>第15回 最終レポートの提出</p>
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



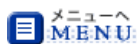
参照URL

学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001018	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	平瀬 正賢		
授業担当教員名(科目責任者)	平瀬 正賢		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	平瀬 正賢		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]205		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィサー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	<p>第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出</p> <p>第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション</p> <p>第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出</p> <p>第14回 最終レポートの修正</p> <p>第15回 最終レポートの提出</p>
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



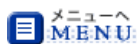
参照URL

学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001019	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	日高 正博		
授業担当教員名(科目責任者)	日高 正博		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	日高 正博		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教]12講義室		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出 第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション 第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出 第14回 最終レポートの修正 第15回 最終レポートの提出
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001020	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	中村 千秋		
授業担当教員名(科目責任者)	中村 千秋		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中村 千秋		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]301		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィサー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養セミナー研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。</p> <p>第1回 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的進め方・計画の説明 第2回 各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業 第3回 図書館資料収集ガイダンスの受講 第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション 第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション 第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始 第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成 第9回 中間発表 質疑応答 第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p>		

	第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告, 計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション, 発表資料の提出・レポート素案の提出 第12回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答, グループディスカッション 第13回 合同発表会によるプレゼンテーション, 質疑応答, レポート最終素案の提出 第14回 最終レポートの修正 第15回 最終レポートの提出
キーワード	初年次教育, 課題解決型学習, 自己表現能力, コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて, 必要があればその時, 指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点, プレゼンテーション 20点, レポート 60点(個人レポート10点, 進捗状況・計画等の報告10点, 文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点)
受講要件(履修条件)	全体の5分の4以上の出席を必要とする。
本科目の位置づけ	全学教育学生便覧を参照すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001021	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	勝又 壮太郎		
授業担当教員名(科目責任者)	勝又 壮太郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	勝又 壮太郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]ゼミ棟第7演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001022	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	勝又 壮太郎		
授業担当教員名(科目責任者)	勝又 壮太郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	勝又 壮太郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]ゼミ棟第7演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001023	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	後藤 祐一		
授業担当教員名(科目責任者)	後藤 祐一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	後藤 祐一		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館33演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001024	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	後藤 祐一		
授業担当教員名(科目責任者)	後藤 祐一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	後藤 祐一		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館33演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001025	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	小山 久美子		
授業担当教員名(科目責任者)	小山 久美子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小山 久美子		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館304演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			



戻る



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001026	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	小山 久美子		
授業担当教員名(科目責任者)	小山 久美子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小山 久美子		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館304演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001027	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	柴多 一雄		
授業担当教員名(科目責任者)	柴多 一雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	柴多 一雄		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館32演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001028	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	島田 章		
授業担当教員名(科目責任者)	島田 章		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	島田 章		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館44演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001029	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	島田 章		
授業担当教員名(科目責任者)	島田 章		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	島田 章		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館44演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001030	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	鈴木 斉		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 斉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 斉		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館46演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001031	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	高木 かおる		
授業担当教員名(科目責任者)	高木 かおる		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高木 かおる		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]ゼミ棟第4演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001032	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	高木 かおる		
授業担当教員名(科目責任者)	高木 かおる		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高木 かおる		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]ゼミ棟第4演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001033	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	土橋 カ也		
授業担当教員名(科目責任者)	土橋 カ也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	土橋 カ也		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]ゼミ棟第10演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001034	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	土橋 カ也		
授業担当教員名(科目責任者)	土橋 カ也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	土橋 カ也		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]ゼミ棟第10演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001035	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	津留崎 和義		
授業担当教員名(科目責任者)	津留崎 和義		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	津留崎 和義		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館204演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001036	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	津留崎 和義		
授業担当教員名(科目責任者)	津留崎 和義		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	津留崎 和義		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館204演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001037	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	豊岡 俊彦		
授業担当教員名(科目責任者)	豊岡 俊彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	豊岡 俊彦		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]ゼミ棟第1演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001038	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	仲井 幹也		
授業担当教員名(科目責任者)	仲井 幹也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	仲井 幹也		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館43演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001039	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	中藤 泉		
授業担当教員名(科目責任者)	中藤 泉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中藤 泉		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]東ア研 3F 315		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





シラバス参照

livecampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001040	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	中藤 泉		
授業担当教員名(科目責任者)	中藤 泉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中藤 泉		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]東ア研 3F 315		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			



戻る



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001041	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	成田 真樹子		
授業担当教員名(科目責任者)	成田 真樹子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	成田 真樹子		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]東ア研 1F セミナー室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001042	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	西村 宣彦		
授業担当教員名(科目責任者)	西村 宣彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西村 宣彦		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館45演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001043	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	西村 宣彦		
授業担当教員名(科目責任者)	西村 宣彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西村 宣彦		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館45演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001044	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	深浦 厚之		
授業担当教員名(科目責任者)	深浦 厚之		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	深浦 厚之		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館205演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001045	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	藤田 渉		
授業担当教員名(科目責任者)	藤田 渉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤田 渉		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]ゼミ棟第8演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001046	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	松本 陸樹		
授業担当教員名(科目責任者)	松本 陸樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松本 陸樹		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館34演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001047	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	丸山 幸宏		
授業担当教員名(科目責任者)	丸山 幸宏		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丸山 幸宏		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館301演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001048	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	丸山 幸宏		
授業担当教員名(科目責任者)	丸山 幸宏		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丸山 幸宏		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館301演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001049	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	村田 省三		
授業担当教員名(科目責任者)	村田 省三		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	村田 省三		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]本館31演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001050	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	村田 嘉弘		
授業担当教員名(科目責任者)	村田 嘉弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	村田 嘉弘		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館302演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001051	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	村田 嘉弘		
授業担当教員名(科目責任者)	村田 嘉弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	村田 嘉弘		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館302演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001052	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	森保 洋		
授業担当教員名(科目責任者)	森保 洋		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	森保 洋		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館401演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001053	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	山口 純哉		
授業担当教員名(科目責任者)	山口 純哉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山口 純哉		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]東ア研 2F 219		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001054	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	式見 雅代		
授業担当教員名(科目責任者)	式見 雅代		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	式見 雅代		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館404演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001055	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	徐 陽		
授業担当教員名(科目責任者)	徐 陽		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	徐 陽		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館203演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001056	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	徐 陽		
授業担当教員名(科目責任者)	徐 陽		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	徐 陽		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[経]新館203演習室		
対象学生(クラス等)	新入生全員及び教養セミナー単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して学生に身につけさせる。実地調査の組み込み等具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(わかりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	教養ゼミナール目標を参照。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001057	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	安田 邦彦		
授業担当教員名(科目責任者)	安田 邦彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	安田 邦彦		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは、複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>第1回 自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的な進め方・計画の説明</p> <p>第2回 学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</p> <p>第3回 図書館資料収集ガイドの受講</p> <p>第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別によるテーマの研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション</p> <p>第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション</p> <p>第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始</p> <p>第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第9回 中間発表・質疑応答</p> <p>第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p> <p>第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の提出・レポート素稿の提出</p> <p>第12回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、</p>		

	発表資料の修正と再提出・レポート素稿の修正と再提出 第13回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答、グループディスカッション 第14回 最終発表会によるプレゼンテーション 質疑応答 レポート最終素案の提出 第15回 最終素案レポートの修正と最終レポートの提出、個人レポートの提出
キーワード	初年次少人数ゼミナール 転換教育 初年次教育 自己発言能力 コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話しの構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001058	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	中山 敏幸		
授業担当教員名(科目責任者)	中山 敏幸		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中山 敏幸		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは、複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>第1回 自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的な進め方・計画の説明</p> <p>第2回 学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</p> <p>第3回 図書館資料収集ガイドの受講</p> <p>第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別によるテーマの研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション</p> <p>第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション</p> <p>第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始</p> <p>第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第9回 中間発表・質疑応答</p> <p>第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p> <p>第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の提出・レポート素稿の提出</p> <p>第12回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、</p>		

	発表資料の修正と再提出・レポート素稿の修正と再提出 第13回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答、グループディスカッション 第14回 最終発表会によるプレゼンテーション 質疑応答 レポート最終素案の提出 第15回 最終素案レポートの修正と最終レポートの提出、個人レポートの提出
キーワード	初年次少人数ゼミナール 転換教育 初年次教育 自己発言能力 コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて、必要があればその時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話しの構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001059	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	山崎 直哉		
授業担当教員名(科目責任者)	山崎 直哉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山崎 直哉		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは、複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>第1回 自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的な進め方・計画の説明</p> <p>第2回 学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</p> <p>第3回 図書館資料収集ガイドの受講</p> <p>第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別によるテーマの研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション</p> <p>第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション</p> <p>第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始</p> <p>第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第9回 中間発表・質疑応答</p> <p>第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p> <p>第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の提出・レポート素稿の提出</p> <p>第12回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、</p>		

	発表資料の修正と再提出・レポート素稿の修正と再提出 第13回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答、グループディスカッション 第14回 最終発表会によるプレゼンテーション 質疑応答 レポート最終素案の提出 第15回 最終素案レポートの修正と最終レポートの提出、個人レポートの提出
キーワード	初年次少人数ゼミナール 転換教育 初年次教育 自己発言能力 コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話しの構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001060	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	江石 清行		
授業担当教員名(科目責任者)	江石 清行		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	江石 清行		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは、複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>第1回 自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的な進め方・計画の説明</p> <p>第2回 学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</p> <p>第3回 図書館資料収集ガイドの受講</p> <p>第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別によるテーマの研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション</p> <p>第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション</p> <p>第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始</p> <p>第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第9回 中間発表・質疑応答</p> <p>第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p> <p>第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の提出・レポート素稿の提出</p> <p>第12回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、</p>		

	発表資料の修正と再提出・レポート素稿の修正と再提出 第13回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答、グループディスカッション 第14回 最終発表会によるプレゼンテーション 質疑応答 レポート最終素案の提出 第15回 最終素案レポートの修正と最終レポートの提出、個人レポートの提出
キーワード	初年次少人数ゼミナール 転換教育 初年次教育 自己発言能力 コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて、必要があればその時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話しの構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001061	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	磯本 一		
授業担当教員名(科目責任者)	磯本 一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	磯本 一		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは、複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>第1回 自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的な進め方・計画の説明</p> <p>第2回 学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</p> <p>第3回 図書館資料収集ガイドの受講</p> <p>第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別によるテーマの研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション</p> <p>第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション</p> <p>第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始</p> <p>第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第9回 中間発表・質疑応答</p> <p>第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p> <p>第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の提出・レポート素稿の提出</p> <p>第12回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、</p>		

	発表資料の修正と再提出・レポート素稿の修正と再提出 第13回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答、グループディスカッション 第14回 最終発表会によるプレゼンテーション 質疑応答 レポート最終素案の提出 第15回 最終素案レポートの修正と最終レポートの提出、個人レポートの提出
キーワード	初年次少人数ゼミナール 転換教育 初年次教育 自己発言能力 コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて、必要があればその時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話しの構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001062	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	石松 祐二		
授業担当教員名(科目責任者)	石松 祐二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	石松 祐二		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィサー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは、複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>第1回 自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的な進め方・計画の説明</p> <p>第2回 学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</p> <p>第3回 図書館資料収集ガイドの受講</p> <p>第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別によるテーマの研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション</p> <p>第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション</p> <p>第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始</p> <p>第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第9回 中間発表・質疑応答</p> <p>第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p> <p>第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の提出・レポート素稿の提出</p> <p>第12回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、</p>		

	発表資料の修正と再提出・レポート素稿の修正と再提出 第13回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答、グループディスカッション 第14回 最終発表会によるプレゼンテーション 質疑応答 レポート最終素案の提出 第15回 最終素案レポートの修正と最終レポートの提出、個人レポートの提出
キーワード	初年次少人数ゼミナール 転換教育 初年次教育 自己発言能力 コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて、必要があればその時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話しの構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	





シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001063	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	三好 宏		
授業担当教員名(科目責任者)	三好 宏		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	三好 宏		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは、複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>第1回 自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的な進め方・計画の説明</p> <p>第2回 学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</p> <p>第3回 図書館資料収集ガイドの受講</p> <p>第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別によるテーマの研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション</p> <p>第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション</p> <p>第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始</p> <p>第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第9回 中間発表・質疑応答</p> <p>第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p> <p>第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の提出・レポート素稿の提出</p> <p>第12回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、</p>		

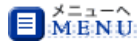
	発表資料の修正と再提出・レポート素稿の修正と再提出 第13回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答、グループディスカッション 第14回 最終発表会によるプレゼンテーション 質疑応答 レポート最終素案の提出 第15回 最終素案レポートの修正と最終レポートの提出、個人レポートの提出
キーワード	初年次少人数ゼミナール 転換教育 初年次教育 自己発言能力 コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話しの構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバスイ覧 > シラバス参照

Login User 本田 垂紀 『全学教育』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001064	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	ミテイ		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴間 潔		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴間 潔		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィサー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは、複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>第1回 自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的な進め方・計画の説明</p> <p>第2回 学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</p> <p>第3回 図書館資料収集ガイドの受講</p> <p>第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別によるテーマの研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション</p> <p>第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション</p> <p>第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始</p> <p>第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第9回 中間発表・質疑応答</p> <p>第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p> <p>第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の提出・レポート素稿の提出</p> <p>第12回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、</p>		

	発表資料の修正と再提出・レポート素稿の修正と再提出 第13回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答、グループディスカッション 第14回 最終発表会によるプレゼンテーション 質疑応答 レポート最終素案の提出 第15回 最終素案レポートの修正と最終レポートの提出、個人レポートの提出
キーワード	初年次少人数ゼミナール 転換教育 初年次教育 自己発言能力 コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて、必要があればその時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話しの構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバスイ覧 > シラバス参照

Login User 本田 垂紀 『全学教育』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001065	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	ミテイ		
授業担当教員名(科目責任者)	江口 晋		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	江口 晋		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは、複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>第1回 自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的な進め方・計画の説明</p> <p>第2回 学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</p> <p>第3回 図書館資料収集ガイドの受講</p> <p>第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別によるテーマの研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション</p> <p>第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション</p> <p>第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始</p> <p>第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第9回 中間発表・質疑応答</p> <p>第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p> <p>第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の提出・レポート素稿の提出</p> <p>第12回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、</p>		

	発表資料の修正と再提出・レポート素稿の修正と再提出 第13回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答、グループディスカッション 第14回 最終発表会によるプレゼンテーション 質疑応答 レポート最終素案の提出 第15回 最終素案レポートの修正と最終レポートの提出、個人レポートの提出
キーワード	初年次少人数ゼミナール 転換教育 初年次教育 自己発言能力 コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて、必要があればその時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話しの構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001066	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	ミテイ		
授業担当教員名(科目責任者)	森川 実		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	森川 実		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは、複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>第1回 自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的な進め方・計画の説明</p> <p>第2回 学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</p> <p>第3回 図書館資料収集ガイドの受講</p> <p>第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別によるテーマの研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション</p> <p>第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション</p> <p>第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始</p> <p>第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第9回 中間発表・質疑応答</p> <p>第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p> <p>第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の提出・レポート素稿の提出</p> <p>第12回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、</p>		

	発表資料の修正と再提出・レポート素稿の修正と再提出 第13回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答、グループディスカッション 第14回 最終発表会によるプレゼンテーション 質疑応答 レポート最終素案の提出 第15回 最終素案レポートの修正と最終レポートの提出、個人レポートの提出
キーワード	初年次少人数ゼミナール 転換教育 初年次教育 自己発言能力 コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせて、必要があればその時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話しの構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



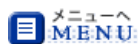
タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001067	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	ミテイ		
授業担当教員名(科目責任者)	久保 嘉直		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	久保 嘉直		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは、複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。②科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>第1回 自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的な進め方・計画の説明</p> <p>第2回 学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業</p> <p>第3回 図書館資料収集ガイドの受講</p> <p>第4回 テーマの設定、グループ分け、グループ別によるテーマの研究の打合せ・グループディスカッション、グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション</p> <p>第5回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション</p> <p>第6回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成開始・レポートの作成開始</p> <p>第7回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第8回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成</p> <p>第9回 中間発表・質疑応答</p> <p>第10回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の作成・レポートの作成(中間発表による修正)</p> <p>第11回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、発表資料の提出・レポート素稿の提出</p> <p>第12回 テーマ研究の進捗状況・経過報告、計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション、</p>		

	発表資料の修正と再提出・レポート素稿の修正と再提出 第13回 プレゼンテーション準備(発表練習)と質疑応答、グループディスカッション 第14回 最終発表会によるプレゼンテーション 質疑応答 レポート最終素案の提出 第15回 最終素案レポートの修正と最終レポートの提出、個人レポートの提出
キーワード	初年次少人数ゼミナール 転換教育 初年次教育 自己発言能力 コミュニケーション能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話しの構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	





タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001068	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(歯学部)		
編集担当教員	西下 一久		
授業担当教員名(科目責任者)	西下 一久		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西下 一久		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス	kazu@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	学習への動機づけを高め、科学的な情報の習得と論理的な考察方法を習得する。またレポート、口頭でのプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることをねらいとする。これにより、高校までの教師主導の型の座学から、大学における自主的学習への導入を行う。また大学での学習の最初の期間として、学生と教員、及び学生相互のコミュニケーション作りの効果も期待する。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラスの学生は10名として、歯学部1年次学生で構成する。原則として1名の教員が前期を通じて担当する		
授業到達目標	① 自主的な学習方法の習得 ② 科学英語の読解、また科学用語の理解を文献検索システムを利用して行う ③ 科学的思考方法に基づく論理的な説明ができる		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>1 新入生を5グループ(1グループ10人)に分け、月曜日のV校時に開講する。(注:第15回のみ火曜/V)</p> <p>2 原則として1名の教員が前期を通じて担当、指導する。</p> <p>3 単位は15週(30時間)で2単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習など能動的で双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。</p> <p>第1回 4月9日 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明</p> <p>第2回 4月16日 第3回 4月23日 第4回 5月7日 第5回 5月14日 第6回 5月21日 第7回 5月28日 第8回 6月4日 第9回 6月11日 第10回 6月18日 第11回 6月25日 第12回 7月2日 第13回 7月9日 第14回 7月23日</p> <p>各教員の指示に従い、課題についての演習(発表、討議)をグループで行う。</p> <p>第15回 7月24日(火)総合討論とレポートの提出</p>		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況、成果発表の良否、およびレポートを総合的に判断し評価する。(詳細は授業開始時に各担当教員から提示する)		
受講要件(履修条件)			

本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	図書館を利用し、関連図書や引用文献を読み、理解を深めること。 発表や討論には積極的に参加すること。 質問等は講義終了後あるいは直接担当教員を訪ねてください。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバスイ覧 > シラバス参照

Login User 本田 垂紀 『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001069	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(歯学部)		
編集担当教員	ミテイ		
授業担当教員名(科目責任者)	ミテイ		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	ミテイ		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	学習への動機づけを高め、科学的な情報の習得と論理的な考察方法を習得する。またレポート、口頭でのプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることをねらいとする。これにより、高校までの教師主導の型の座学から、大学における自主的学習への導入を行う。また大学での学習の最初の期間として、学生と教員、及び学生相互のコミュニケーション作りの効果も期待する。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラスの学生は10名として、歯学部1年次学生で構成する。原則として1名の教員が前期を通じて担当する		
授業到達目標	① 自主的な学習方法の習得 ② 科学英語の読解、また科学用語の理解を文献検索システムを利用して行う ③ 科学的思考方法に基づく論理的な説明ができる		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>1 新入生を5グループ(1グループ10人)に分け、月曜日のV校時に開講する。(注:第15回のみ火曜/V)</p> <p>2 原則として1名の教員が前期を通じて担当、指導する。</p> <p>3 単位は15週(30時間)で2単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習など能動的で双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。</p> <p>第1回 4月9日 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明</p> <p>第2回 4月16日 第3回 4月23日 第4回 5月7日 第5回 5月14日</p> <p>第6回 5月21日 第7回 5月28日 第8回 6月4日 第9回 6月11日</p> <p>第10回 6月18日 第11回 6月25日 第12回 7月2日 第13回 7月9日</p> <p>第14回 7月23日</p> <p>各教員の指示に従い、課題についての演習(発表、討議)をグループで行う。</p> <p>第15回 7月24日(火)総合討論とレポートの提出</p>		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況、成果発表の良否、およびレポートを総合的に判断し評価する。(詳細は授業開始時に各担当教員から提示する)		
受講要件(履修条件)			

本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	図書館を利用し、関連図書や引用文献を読み、理解を深めること。 発表や討論には積極的に参加すること。 質問等は講義終了後あるいは直接担当教員を訪ねてください。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001070	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(歯学部)		
編集担当教員	野口 和子		
授業担当教員名(科目責任者)	野口 和子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	野口 和子		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス	wako@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	学習への動機づけを高め、科学的な情報の習得と論理的な考察方法を習得する。またレポート、口頭でのプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることをねらいとする。これにより、高校までの教師主導の型の座学から、大学における自主的学習への導入を行う。また大学での学習の最初の期間として、学生と教員、及び学生相互のコミュニケーション作りの効果も期待する。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラスの学生は10名として、歯学部1年次学生で構成する。原則として1名の教員が前期を通じて担当する		
授業到達目標	① 自主的な学習方法の習得 ② 科学英語の読解、また科学用語の理解を文献検索システムを利用して行う ③ 科学的思考方法に基づく論理的な説明ができる		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>1 新入生を5グループ(1グループ10人)に分け、月曜日のV校時に開講する。(注:第15回のみ火曜/V)</p> <p>2 原則として1名の教員が前期を通じて担当、指導する。</p> <p>3 単位は15週(30時間)で2単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習など能動的で双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。</p> <p>第1回 4月9日 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明</p> <p>第2回 4月16日 第3回 4月23日 第4回 5月7日 第5回 5月14日</p> <p>第6回 5月21日 第7回 5月28日 第8回 6月4日 第9回 6月11日</p> <p>第10回 6月18日 第11回 6月25日 第12回 7月2日 第13回 7月9日</p> <p>第14回 7月23日</p> <p>各教員の指示に従い、課題についての演習(発表、討議)をグループで行う。</p> <p>第15回 7月24日(火)総合討論とレポートの提出</p>		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況、成果発表の良否、およびレポートを総合的に判断し評価する。(詳細は授業開始時に各担当教員から提示する)		
受講要件(履修条件)			

本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	図書館を利用し、関連図書や引用文献を読み、理解を深めること。 発表や討論には積極的に参加すること。 質問等は講義終了後あるいは直接担当教員を訪ねてください。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001071	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(歯学部)		
編集担当教員	柳口 嘉治郎		
授業担当教員名(科目責任者)	柳口 嘉治郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	柳口 嘉治郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	学習への動機づけを高め、科学的な情報の習得と論理的な考察方法を習得する。またレポート、口頭でのプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることをねらいとする。これにより、高校までの教師主導の型の座学から、大学における自主的学習への導入を行う。また大学での学習の最初の期間として、学生と教員、及び学生相互のコミュニケーション作りの効果も期待する。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラスの学生は10名として、歯学部1年次学生で構成する。原則として1名の教員が前期を通じて担当する		
授業到達目標	① 自主的な学習方法の習得 ② 科学英語の読解、また科学用語の理解を文献検索システムを利用して行う ③ 科学的思考方法に基づく論理的な説明ができる		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>1 新入生を5グループ(1グループ10人)に分け、月曜日のV校時に開講する。(注:第15回のみ火曜/V)</p> <p>2 原則として1名の教員が前期を通じて担当、指導する。</p> <p>3 単位は15週(30時間)で2単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習など能動的で双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。</p> <p>第1回 4月9日 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明</p> <p>第2回 4月16日 第3回 4月23日 第4回 5月7日 第5回 5月14日</p> <p>第6回 5月21日 第7回 5月28日 第8回 6月4日 第9回 6月11日</p> <p>第10回 6月18日 第11回 6月25日 第12回 7月2日 第13回 7月9日</p> <p>第14回 7月23日</p> <p>各教員の指示に従い、課題についての演習(発表、討議)をグループで行う。</p> <p>第15回 7月24日(火)総合討論とレポートの提出</p>		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況、成果発表の良否、およびレポートを総合的に判断し評価する。(詳細は授業開始時に各担当教員から提示する)		
受講要件(履修条件)			

本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	図書館を利用し、関連図書や引用文献を読み、理解を深めること。 発表や討論には積極的に参加すること。 質問等は講義終了後あるいは直接担当教員を訪ねてください。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System

メニューへ
MENUログアウト
LOGOUT

シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバスイ覧 > シラバス参照

Login User 本田 垂紀 『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。

印刷



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



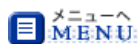
参照URL

学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001072	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(歯学部)		
編集担当教員	鵜飼 孝		
授業担当教員名(科目責任者)	鵜飼 孝		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鵜飼 孝		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	学習への動機づけを高め、科学的な情報の習得と論理的な考察方法を習得する。またレポート、口頭でのプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることをねらいとする。これにより、高校までの教師主導の型の座学から、大学における自主的学習への導入を行う。また大学での学習の最初の期間として、学生と教員、及び学生相互のコミュニケーション作りの効果も期待する。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラスの学生は10名として、歯学部1年次学生で構成する。原則として1名の教員が前期を通じて担当する		
授業到達目標	① 自主的な学習方法の習得 ② 科学英語の読解、また科学用語の理解を文献検索システムを利用して行う ③ 科学的思考方法に基づく論理的な説明ができる		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>1 新入生を5グループ(1グループ10人)に分け、月曜日のV校時に開講する。(注:第15回のみ火曜/V)</p> <p>2 原則として1名の教員が前期を通じて担当、指導する。</p> <p>3 単位は15週(30時間)で2単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習など能動的で双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。</p> <p>第1回 4月9日 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明</p> <p>第2回 4月16日 第3回 4月23日 第4回 5月7日 第5回 5月14日 第6回 5月21日 第7回 5月28日 第8回 6月4日 第9回 6月11日 第10回 6月18日 第11回 6月25日 第12回 7月2日 第13回 7月9日 第14回 7月23日</p> <p>各教員の指示に従い、課題についての演習(発表、討議)をグループで行う。</p> <p>第15回 7月24日(火)総合討論とレポートの提出</p>		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況、成果発表の良否、およびレポートを総合的に判断し評価する。(詳細は授業開始時に各担当教員から提示する)		
受講要件(履修条件)			

本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	図書館を利用し、関連図書や引用文献を読み、理解を深めること。 発表や討論には積極的に参加すること。 質問等は講義終了後あるいは直接担当教員を訪ねてください。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001073	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(歯学部)		
編集担当教員	ミテイ		
授業担当教員名(科目責任者)	ミテイ		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	ミテイ		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	学習への動機づけを高め、科学的な情報の習得と論理的な考察方法を習得する。またレポート、口頭でのプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることをねらいとする。これにより、高校までの教師主導の型の座学から、大学における自主的学習への導入を行う。また大学での学習の最初の期間として、学生と教員、及び学生相互のコミュニケーション作りの効果も期待する。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラスの学生は10名として、歯学部1年次学生で構成する。原則として1名の教員が前期を通じて担当する		
授業到達目標	① 自主的な学習方法の習得 ② 科学英語の読解、また科学用語の理解を文献検索システムを利用して行う ③ 科学的思考方法に基づく論理的な説明ができる		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>1 新入生を5グループ(1グループ10人)に分け、月曜日のV校時に開講する。(注:第15回のみ火曜/V)</p> <p>2 原則として1名の教員が前期を通じて担当、指導する。</p> <p>3 単位は15週(30時間)で2単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習など能動的で双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。</p> <p>第1回 4月9日 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明</p> <p>第2回 4月16日 第3回 4月23日 第4回 5月7日 第5回 5月14日</p> <p>第6回 5月21日 第7回 5月28日 第8回 6月4日 第9回 6月11日</p> <p>第10回 6月18日 第11回 6月25日 第12回 7月2日 第13回 7月9日</p> <p>第14回 7月23日</p> <p>各教員の指示に従い、課題についての演習(発表、討議)をグループで行う。</p> <p>第15回 7月24日(火)総合討論とレポートの提出</p>		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況、成果発表の良否、およびレポートを総合的に判断し評価する。(詳細は授業開始時に各担当教員から提示する)		
受講要件(履修条件)			

本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	図書館を利用し、関連図書や引用文献を読み、理解を深めること。 発表や討論には積極的に参加すること。 質問等は講義終了後あるいは直接担当教員を訪ねてください。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001074	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(歯学部)		
編集担当教員	住田 吉慶		
授業担当教員名(科目責任者)	住田 吉慶		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	住田 吉慶		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス	y-sumita@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	学習への動機づけを高め、科学的な情報の習得と論理的な考察方法を習得する。またレポート、口頭でのプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることをねらいとする。これにより、高校までの教師主導の型の座学から、大学における自主的学習への導入を行う。また大学での学習の最初の期間として、学生と教員、及び学生相互のコミュニケーション作りの効果も期待する。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラスの学生は10名として、歯学部1年次学生で構成する。原則として1名の教員が前期を通じて担当する		
授業到達目標	① 自主的な学習方法の習得 ② 科学英語の読解、また科学用語の理解を文献検索システムを利用して行う ③ 科学的思考方法に基づく論理的な説明ができる		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>1 新入生を5グループ(1グループ10人)に分け、月曜日のV校時に開講する。(注:第15回のみ火曜/V)</p> <p>2 原則として1名の教員が前期を通じて担当、指導する。</p> <p>3 単位は15週(30時間)で2単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習など能動的で双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。</p> <p>第1回 4月9日 自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明</p> <p>第2回 4月16日 第3回 4月23日 第4回 5月7日 第5回 5月14日 第6回 5月21日 第7回 5月28日 第8回 6月4日 第9回 6月11日 第10回 6月18日 第11回 6月25日 第12回 7月2日 第13回 7月9日 第14回 7月23日</p> <p>各教員の指示に従い、課題についての演習(発表、討議)をグループで行う。</p> <p>第15回 7月24日(火)総合討論とレポートの提出</p>		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況、成果発表の良否、およびレポートを総合的に判断し評価する。(詳細は授業開始時に各担当教員から提示する)		
受講要件(履修条件)			

本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	図書館を利用し、関連図書や引用文献を読み、理解を深めること。 発表や討論には積極的に参加すること。 質問等は講義終了後あるいは直接担当教員を訪ねてください。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



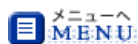
参照URL

学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001075	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(薬学部)		
編集担当教員	田中 隆		
授業担当教員名(科目責任者)	田中 隆		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田中 隆		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[薬]3 階セミナー室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	授業のねらい: 医薬品の役割, 開発, 使用についておおまかな流れを説明できる知識を身につける。併せて, 専門教育への動機づけを高め, レポートや口頭発表, グループ討議を通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており, 高校までの教師主導型学習から, 大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また, 大学での学習の入り口として, 学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて, 今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	それぞれのテーマ, シナリオに基づいて調査研究を行う。各グループでテーマの進捗状況, 今後の展開方法, 計画について話し合い, その検討結果を発表する。各グループ別に, 報告を, パワーポイントを用いた発表形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて, 報告レポート集を作成, 提出する。15回目には複数クラスを交えた合同発表会を行う。		
授業到達目標	①医薬品の役割を概説できる。②医薬品の開発, 又は医薬品の使用について概説できる。③グループ討議や発表において適切な自己表現ができる。④学生間及び教員に対してコミュニケーションが取れる。		
授業内容	<p>授業内容(概要) 「長崎と薬学との関わり」, 「医薬品の役割」, 「医薬品の開発」, 「医薬品の使用」についてPBL方式で自ら学ぶ。</p> <p>(長崎と薬学)</p> <p>1回 自己紹介, シラバスの説明, テーマ提示と課題分担 2回 図書館資料収集ガイダンス(2回-5回のいずれかで受講) 3回 グループ内で調査報告と意見交換, 調べ方の基礎 4回 グループ内で調査報告と意見交換, プレゼンテーションの基礎 5回 グループ内で調査報告と意見交換, プレゼンテーションの準備 6回 グループ・プレゼンテーション, 全体討論, レポートライティングの基礎</p> <p>(医薬品の役割)</p> <p>7回 導入とシナリオ提示, 意見交換, 課題の明確化と分担, 検索ヒントと留意点, ペアでプランニング 8回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 9回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 10回 合同報告会</p> <p>(医薬品の開発, 又は医薬品の使用)</p> <p>11回 導入とシナリオ提示, 意見交換, 課題の明確化と分担, 検索ヒントと留意点, ペアでプランニング 12回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 13回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング, デイバート・ディスカッションの基礎 14回 ペアでプレゼンテーション, 全体討論 15回 デイバート・ディスカッション, 薬効評価の統計学的基礎</p>		

キーワード	医薬品, 長崎
教科書・教材・参考書	参考書: 出島のくすり(九州大学出版), 薬学概論(南山堂), 情報基礎テキストとマニュアル本(Office 2010)
成績評価の方法・基準等	成績評価: 平常点4点×15回、プレゼンテーション5点×3回、レポート5点×3回、最終自己評価10点
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	薬学教育モデル・コアカリキュラムBイントロダクションに対応
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	報告、発表やレポート提出に向けて準備すること。 授業時、参考書を持参すること。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001076	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(薬学部)		
編集担当教員	和田 光弘		
授業担当教員名(科目責任者)	和田 光弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	和田 光弘		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[薬]5階リフレッシュルーム		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	授業のねらい: 医薬品の役割, 開発, 使用についておおまかな流れを説明できる知識を身につける。併せて, 専門教育への動機づけを高め, レポートや口頭発表, グループ討議を通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており, 高校までの教師主導型学習から, 大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また, 大学での学習の入り口として, 学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて, 今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	それぞれのテーマ, シナリオに基づいて調査研究を行う。各グループでテーマの進捗状況, 今後の展開方法, 計画について話し合い, その検討結果を発表する。各グループ別に, 報告を, パワーポイントを用いた発表形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて, 報告レポート集を作成, 提出する。15回目には複数クラスを交えた合同発表会を行う。		
授業到達目標	①医薬品の役割を概説できる。②医薬品の開発, 又は医薬品の使用について概説できる。③グループ討議や発表において適切な自己表現ができる。④学生間及び教員に対してコミュニケーションが取れる。		
授業内容	<p>授業内容(概要) 「長崎と薬学との関わり」, 「医薬品の役割」, 「医薬品の開発」, 「医薬品の使用」についてPBL方式で自ら学ぶ。</p> <p>(長崎と薬学)</p> <p>1回 自己紹介, シラバスの説明, テーマ提示と課題分担 2回 図書館資料収集ガイダンス(2回-5回のいずれかで受講) 3回 グループ内で調査報告と意見交換, 調べ方の基礎 4回 グループ内で調査報告と意見交換, プレゼンテーションの基礎 5回 グループ内で調査報告と意見交換, プレゼンテーションの準備 6回 グループ・プレゼンテーション, 全体討論, レポートライティングの基礎</p> <p>(医薬品の役割)</p> <p>7回 導入とシナリオ提示, 意見交換, 課題の明確化と分担, 検索ヒントと留意点, ペアでプランニング 8回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 9回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 10回 合同報告会</p> <p>(医薬品の開発, 又は医薬品の使用)</p> <p>11回 導入とシナリオ提示, 意見交換, 課題の明確化と分担, 検索ヒントと留意点, ペアでプランニング 12回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 13回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング, デイバート・ディスカッションの基礎 14回 ペアでプレゼンテーション, 全体討論 15回 デイバート・ディスカッション, 薬効評価の統計学的基礎</p>		

キーワード	医薬品, 長崎
教科書・教材・参考書	参考書: 出島のくすり(九州大学出版), 薬学概論(南山堂), 情報基礎テキストとマニュアル本(Office 2010)
成績評価の方法・基準等	成績評価: 平常点4点×15回、プレゼンテーション5点×3回、レポート5点×3回、最終自己評価10点
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	薬学教育モデル・コアカリキュラムBイントロダクションに対応
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	報告、発表やレポート提出に向けて準備すること。 授業時、参考書を持参すること。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

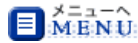


学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001077	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(薬学部)		
編集担当教員	山田 耕史		
授業担当教員名(科目責任者)	山田 耕史		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山田 耕史		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[薬]多目的ホール		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	授業のねらい: 医薬品の役割, 開発, 使用についておおまかな流れを説明できる知識を身につける。併せて, 専門教育への動機づけを高め, レポートや口頭発表, グループ討議を通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており, 高校までの教師主導型学習から, 大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また, 大学での学習の入り口として, 学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて, 今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	それぞれのテーマ, シナリオに基づいて調査研究を行う。各グループでテーマの進捗状況, 今後の展開方法, 計画について話し合い, その検討結果を発表する。各グループ別に, 報告を, パワーポイントを用いた発表形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて, 報告レポート集を作成, 提出する。15回目には複数クラスを交えた合同発表会を行う。		
授業到達目標	①医薬品の役割を概説できる。②医薬品の開発, 又は医薬品の使用について概説できる。③グループ討議や発表において適切な自己表現ができる。④学生間及び教員に対してコミュニケーションが取れる。		
授業内容	<p>授業内容(概要) 「長崎と薬学との関わり」, 「医薬品の役割」, 「医薬品の開発」, 「医薬品の使用」についてPBL方式で自ら学ぶ。</p> <p>(長崎と薬学)</p> <p>1回 自己紹介, シラバスの説明, テーマ提示と課題分担 2回 図書館資料収集ガイダンス(2回-5回のいずれかで受講) 3回 グループ内で調査報告と意見交換, 調べ方の基礎 4回 グループ内で調査報告と意見交換, プレゼンテーションの基礎 5回 グループ内で調査報告と意見交換, プレゼンテーションの準備 6回 グループ・プレゼンテーション, 全体討論, レポートライティングの基礎</p> <p>(医薬品の役割)</p> <p>7回 導入とシナリオ提示, 意見交換, 課題の明確化と分担, 検索ヒントと留意点, ペアでプランニング 8回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 9回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 10回 合同報告会</p> <p>(医薬品の開発, 又は医薬品の使用)</p> <p>11回 導入とシナリオ提示, 意見交換, 課題の明確化と分担, 検索ヒントと留意点, ペアでプランニング 12回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 13回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング, デイバート・ディスカッションの基礎 14回 ペアでプレゼンテーション, 全体討論 15回 デイバート・ディスカッション, 薬効評価の統計学的基礎</p>		

キーワード	医薬品, 長崎
教科書・教材・参考書	参考書: 出島のくすり(九州大学出版), 薬学概論(南山堂), 情報基礎テキストとマニュアル本(Office 2010)
成績評価の方法・基準等	成績評価: 平常点4点×15回、プレゼンテーション5点×3回、レポート5点×3回、最終自己評価10点
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	薬学教育モデル・コアカリキュラムBイントロダクションに対応
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	報告、発表やレポート提出に向けて準備すること。 授業時、参考書を持参すること。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001078	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(薬学部)		
編集担当教員	高橋 正克		
授業担当教員名(科目責任者)	高橋 正克		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高橋 正克		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[薬]5階リフレッシュルーム		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	授業のねらい: 医薬品の役割, 開発, 使用についておおまかな流れを説明できる知識を身につける。併せて, 専門教育への動機づけを高め, レポートや口頭発表, グループ討議を通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており, 高校までの教師主導型学習から, 大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また, 大学での学習の入り口として, 学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて, 今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	それぞれのテーマ, シナリオに基づいて調査研究を行う。各グループでテーマの進捗状況, 今後の展開方法, 計画について話し合い, その検討結果を発表する。各グループ別に, 報告を, パワーポイントを用いた発表形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて, 報告レポート集を作成, 提出する。15回目には複数クラスを交えた合同発表会を行う。		
授業到達目標	①医薬品の役割を概説できる。②医薬品の開発, 又は医薬品の使用について概説できる。③グループ討議や発表において適切な自己表現ができる。④学生間及び教員に対してコミュニケーションが取れる。		
授業内容	<p>授業内容(概要) 「長崎と薬学との関わり」, 「医薬品の役割」, 「医薬品の開発」, 「医薬品の使用」についてPBL方式で自ら学ぶ。</p> <p>(長崎と薬学)</p> <p>1回 自己紹介, シラバスの説明, テーマ提示と課題分担 2回 図書館資料収集ガイダンス(2回-5回のいずれかで受講) 3回 グループ内で調査報告と意見交換, 調べ方の基礎 4回 グループ内で調査報告と意見交換, プレゼンテーションの基礎 5回 グループ内で調査報告と意見交換, プレゼンテーションの準備 6回 グループ・プレゼンテーション, 全体討論, レポートライティングの基礎</p> <p>(医薬品の役割)</p> <p>7回 導入とシナリオ提示, 意見交換, 課題の明確化と分担, 検索ヒントと留意点, ペアでプランニング 8回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 9回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 10回 合同報告会</p> <p>(医薬品の開発, 又は医薬品の使用)</p> <p>11回 導入とシナリオ提示, 意見交換, 課題の明確化と分担, 検索ヒントと留意点, ペアでプランニング 12回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 13回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング, デイバート・ディスカッションの基礎 14回 ペアでプレゼンテーション, 全体討論 15回 デイバート・ディスカッション, 薬効評価の統計学的基礎</p>		

キーワード	医薬品, 長崎
教科書・教材・参考書	参考書: 出島のくすり(九州大学出版), 薬学概論(南山堂), 情報基礎テキストとマニュアル本(Office 2010)
成績評価の方法・基準等	成績評価: 平常点4点×15回、プレゼンテーション5点×3回、レポート5点×3回、最終自己評価10点
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	薬学教育モデル・コアカリキュラムBイントロダクションに対応
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	報告、発表やレポート提出に向けて準備すること。 授業時、参考書を持参すること。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001079	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(薬学部)		
編集担当教員	田中 正一		
授業担当教員名(科目責任者)	田中 正一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田中 正一		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	〔薬〕3 階セミナー室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	授業のねらい: 医薬品の役割, 開発, 使用についておおまかな流れを説明できる知識を身につける。併せて, 専門教育への動機づけを高め, レポートや口頭発表, グループ討議を通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており, 高校までの教師主導型学習から, 大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また, 大学での学習の入り口として, 学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて, 今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	それぞれのテーマ, シナリオに基づいて調査研究を行う。各グループでテーマの進捗状況, 今後の展開方法, 計画について話し合い, その検討結果を発表する。各グループ別に, 報告を, パワーポイントを用いた発表形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて, 報告レポート集を作成, 提出する。15回目には複数クラスを交えた合同発表会を行う。		
授業到達目標	①医薬品の役割を概説できる。②医薬品の開発, 又は医薬品の使用について概説できる。③グループ討議や発表において適切な自己表現ができる。④学生間及び教員に対してコミュニケーションが取れる。		
授業内容	<p>授業内容(概要) 「長崎と薬学との関わり」, 「医薬品の役割」, 「医薬品の開発」, 「医薬品の使用」についてPBL方式で自ら学ぶ。</p> <p>(長崎と薬学)</p> <p>1回 自己紹介, シラバスの説明, テーマ提示と課題分担 2回 図書館資料収集ガイダンス(2回-5回のいずれかで受講) 3回 グループ内で調査報告と意見交換, 調べ方の基礎 4回 グループ内で調査報告と意見交換, プレゼンテーションの基礎 5回 グループ内で調査報告と意見交換, プレゼンテーションの準備 6回 グループ・プレゼンテーション, 全体討論, レポートライティングの基礎</p> <p>(医薬品の役割)</p> <p>7回 導入とシナリオ提示, 意見交換, 課題の明確化と分担, 検索ヒントと留意点, ペアでプランニング 8回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 9回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 10回 合同報告会</p> <p>(医薬品の開発, 又は医薬品の使用)</p> <p>11回 導入とシナリオ提示, 意見交換, 課題の明確化と分担, 検索ヒントと留意点, ペアでプランニング 12回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 13回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング, デイバート・ディスカッションの基礎 14回 ペアでプレゼンテーション, 全体討論 15回 デイバート・ディスカッション, 薬効評価の統計学的基礎</p>		

キーワード	医薬品, 長崎
教科書・教材・参考書	参考書: 出島のくすり(九州大学出版), 薬学概論(南山堂), 情報基礎テキストとマニュアル本(Office 2010)
成績評価の方法・基準等	成績評価: 平常点4点×15回、プレゼンテーション5点×3回、レポート5点×3回、最終自己評価10点
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	薬学教育モデル・コアカリキュラムBイントロダクションに対応
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	報告、発表やレポート提出に向けて準備すること。 授業時、参考書を持参すること。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001080	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(薬学部)		
編集担当教員	大山 要		
授業担当教員名(科目責任者)	大山 要		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大山 要		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[薬]5階研修室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	授業のねらい: 医薬品の役割, 開発, 使用についておおまかな流れを説明できる知識を身につける。併せて, 専門教育への動機づけを高め, レポートや口頭発表, グループ討議を通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており, 高校までの教師主導型学習から, 大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また, 大学での学習の入り口として, 学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて, 今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	それぞれのテーマ, シナリオに基づいて調査研究を行う。各グループでテーマの進捗状況, 今後の展開方法, 計画について話し合い, その検討結果を発表する。各グループ別に, 報告を, パワーポイントを用いた発表形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて, 報告レポート集を作成, 提出する。15回目には複数クラスを交えた合同発表会を行う。		
授業到達目標	①医薬品の役割を概説できる。②医薬品の開発, 又は医薬品の使用について概説できる。③グループ討議や発表において適切な自己表現ができる。④学生間及び教員に対してコミュニケーションが取れる。		
授業内容	<p>授業内容(概要) 「長崎と薬学との関わり」, 「医薬品の役割」, 「医薬品の開発」, 「医薬品の使用」についてPBL方式で自ら学ぶ。</p> <p>(長崎と薬学)</p> <p>1回 自己紹介, シラバスの説明, テーマ提示と課題分担 2回 図書館資料収集ガイダンス(2回-5回のいずれかで受講) 3回 グループ内で調査報告と意見交換, 調べ方の基礎 4回 グループ内で調査報告と意見交換, プレゼンテーションの基礎 5回 グループ内で調査報告と意見交換, プレゼンテーションの準備 6回 グループ・プレゼンテーション, 全体討論, レポートライティングの基礎</p> <p>(医薬品の役割)</p> <p>7回 導入とシナリオ提示, 意見交換, 課題の明確化と分担, 検索ヒントと留意点, ペアでプランニング 8回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 9回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 10回 合同報告会</p> <p>(医薬品の開発, 又は医薬品の使用)</p> <p>11回 導入とシナリオ提示, 意見交換, 課題の明確化と分担, 検索ヒントと留意点, ペアでプランニング 12回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 13回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング, デイバート・ディスカッションの基礎 14回 ペアでプレゼンテーション, 全体討論 15回 デイバート・ディスカッション, 薬効評価の統計学的基礎</p>		

キーワード	医薬品, 長崎
教科書・教材・参考書	参考書: 出島のくすり(九州大学出版), 薬学概論(南山堂), 情報基礎テキストとマニュアル本(Office 2010)
成績評価の方法・基準等	成績評価: 平常点4点×15回、プレゼンテーション5点×3回、レポート5点×3回、最終自己評価10点
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	薬学教育モデル・コアカリキュラムBイントロダクションに対応
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	報告、発表やレポート提出に向けて準備すること。 授業時、参考書を持参すること。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001081	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(薬学部)		
編集担当教員	大脇 裕一		
授業担当教員名(科目責任者)	大脇 裕一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大脇 裕一		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[薬]5階研修室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	授業のねらい: 医薬品の役割, 開発, 使用についておおまかな流れを説明できる知識を身につける。併せて, 専門教育への動機づけを高め, レポートや口頭発表, グループ討議を通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており, 高校までの教師主導型学習から, 大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また, 大学での学習の入り口として, 学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて, 今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	それぞれのテーマ, シナリオに基づいて調査研究を行う。各グループでテーマの進捗状況, 今後の展開方法, 計画について話し合い, その検討結果を発表する。各グループ別に, 報告を, パワーポイントを用いた発表形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて, 報告レポート集を作成, 提出する。15回目には複数クラスを交えた合同発表会を行う。		
授業到達目標	①医薬品の役割を概説できる。②医薬品の開発, 又は医薬品の使用について概説できる。③グループ討議や発表において適切な自己表現ができる。④学生間及び教員に対してコミュニケーションが取れる。		
授業内容	<p>授業内容(概要) 「長崎と薬学との関わり」, 「医薬品の役割」, 「医薬品の開発」, 「医薬品の使用」についてPBL方式で自ら学ぶ。</p> <p>(長崎と薬学)</p> <p>1回 自己紹介, シラバスの説明, テーマ提示と課題分担 2回 図書館資料収集ガイダンス(2回-5回のいずれかで受講) 3回 グループ内で調査報告と意見交換, 調べ方の基礎 4回 グループ内で調査報告と意見交換, プレゼンテーションの基礎 5回 グループ内で調査報告と意見交換, プレゼンテーションの準備 6回 グループ・プレゼンテーション, 全体討論, レポートライティングの基礎</p> <p>(医薬品の役割)</p> <p>7回 導入とシナリオ提示, 意見交換, 課題の明確化と分担, 検索ヒントと留意点, ペアでプランニング 8回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 9回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 10回 合同報告会</p> <p>(医薬品の開発, 又は医薬品の使用)</p> <p>11回 導入とシナリオ提示, 意見交換, 課題の明確化と分担, 検索ヒントと留意点, ペアでプランニング 12回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 13回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング, デイバート・ディスカッションの基礎 14回 ペアでプレゼンテーション, 全体討論 15回 デイバート・ディスカッション, 薬効評価の統計学的基礎</p>		

キーワード	医薬品, 長崎
教科書・教材・参考書	参考書: 出島のくすり(九州大学出版), 薬学概論(南山堂), 情報基礎テキストとマニュアル本(Office 2010)
成績評価の方法・基準等	成績評価: 平常点4点×15回、プレゼンテーション5点×3回、レポート5点×3回、最終自己評価10点
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	薬学教育モデル・コアカリキュラムBイントロダクションに対応
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	報告、発表やレポート提出に向けて準備すること。 授業時、参考書を持参すること。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001082	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(薬学部)		
編集担当教員	小林 信之		
授業担当教員名(科目責任者)	小林 信之		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小林 信之		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[薬]2 階セミナー室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	授業のねらい: 医薬品の役割, 開発, 使用についておおまかな流れを説明できる知識を身につける。併せて, 専門教育への動機づけを高め, レポートや口頭発表, グループ討議を通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており, 高校までの教師主導型学習から, 大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また, 大学での学習の入り口として, 学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて, 今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	それぞれのテーマ, シナリオに基づいて調査研究を行う。各グループでテーマの進捗状況, 今後の展開方法, 計画について話し合い, その検討結果を発表する。各グループ別に, 報告を, パワーポイントを用いた発表形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて, 報告レポート集を作成, 提出する。15回目には複数クラスを交えた合同発表会を行う。		
授業到達目標	①医薬品の役割を概説できる。②医薬品の開発, 又は医薬品の使用について概説できる。③グループ討議や発表において適切な自己表現ができる。④学生間及び教員に対してコミュニケーションが取れる。		
授業内容	<p>授業内容(概要) 「長崎と薬学との関わり」, 「医薬品の役割」, 「医薬品の開発」, 「医薬品の使用」についてPBL方式で自ら学ぶ。</p> <p>(長崎と薬学)</p> <p>1回 自己紹介, シラバスの説明, テーマ提示と課題分担 2回 図書館資料収集ガイダンス(2回-5回のいずれかで受講) 3回 グループ内で調査報告と意見交換, 調べ方の基礎 4回 グループ内で調査報告と意見交換, プレゼンテーションの基礎 5回 グループ内で調査報告と意見交換, プレゼンテーションの準備 6回 グループ・プレゼンテーション, 全体討論, レポートライティングの基礎</p> <p>(医薬品の役割)</p> <p>7回 導入とシナリオ提示, 意見交換, 課題の明確化と分担, 検索ヒントと留意点, ペアでプランニング 8回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 9回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 10回 合同報告会</p> <p>(医薬品の開発, 又は医薬品の使用)</p> <p>11回 導入とシナリオ提示, 意見交換, 課題の明確化と分担, 検索ヒントと留意点, ペアでプランニング 12回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング 13回 グループ内で調査報告と意見交換, ペアでプランニング, デイバート・ディスカッションの基礎 14回 ペアでプレゼンテーション, 全体討論 15回 デイバート・ディスカッション, 薬効評価の統計学的基礎</p>		

キーワード	医薬品, 長崎
教科書・教材・参考書	参考書: 出島のくすり(九州大学出版), 薬学概論(南山堂), 情報基礎テキストとマニュアル本(Office 2010)
成績評価の方法・基準等	成績評価: 平常点4点×15回、プレゼンテーション5点×3回、レポート5点×3回、最終自己評価10点
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	薬学教育モデル・コアカリキュラムBイントロダクションに対応
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	報告、発表やレポート提出に向けて準備すること。 授業時、参考書を持参すること。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001083	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	茂地 徹		
授業担当教員名(科目責任者)	茂地 徹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	茂地 徹		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[工]1		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィサー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001084	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	林 秀千人		
授業担当教員名(科目責任者)	林 秀千人		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林 秀千人		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[工]3		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001085	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	高瀬 徹		
授業担当教員名(科目責任者)	高瀬 徹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高瀬 徹		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[工]4		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001086	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	下本 陽一		
授業担当教員名(科目責任者)	下本 陽一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	下本 陽一		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]103		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

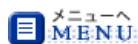


学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001087	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	竹中 隆		
授業担当教員名(科目責任者)	竹中 隆		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	竹中 隆		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[工]21		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィサー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001088	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	田口 光雄		
授業担当教員名(科目責任者)	田口 光雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田口 光雄		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[工]21		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィサー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001089	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	辻 峰男		
授業担当教員名(科目責任者)	辻 峰男		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	辻 峰男		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[工]22		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001090	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	樋口 剛		
授業担当教員名(科目責任者)	樋口 剛		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	樋口 剛		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[工]22		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィサー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001091	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	福永 博俊		
授業担当教員名(科目責任者)	福永 博俊		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	福永 博俊		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[工]23		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など) ・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど) ・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど) ・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001092	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	田中 俊幸		
授業担当教員名(科目責任者)	田中 俊幸		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田中 俊幸		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[工]24		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など) ・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど) ・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど) ・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001093	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	中野 正基		
授業担当教員名(科目責任者)	中野 正基		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中野 正基		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[工]23		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

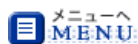


学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001094	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	藤島 友之		
授業担当教員名(科目責任者)	藤島 友之		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤島 友之		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]104		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など) ・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど) ・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど) ・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001095	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	柴田 裕一郎		
授業担当教員名(科目責任者)	柴田 裕一郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	柴田 裕一郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[総]108		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001096	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	末吉 豊		
授業担当教員名(科目責任者)	末吉 豊		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	末吉 豊		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[工]6		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など) ・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど) ・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど) ・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001097	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	榑崎 修二		
授業担当教員名(科目責任者)	榑崎 修二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	榑崎 修二		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]203		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など) ・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど) ・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど) ・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001098	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	原田 哲夫		
授業担当教員名(科目責任者)	原田 哲夫		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	原田 哲夫		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[工]3		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20120560001099	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	藤原 真一		
授業担当教員名(科目責任者)	藤原 真一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤原 真一		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[工]4		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など) ・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど) ・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど) ・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010A0	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	蔣 宇静		
授業担当教員名(科目責任者)	蔣 宇静		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	蔣 宇静		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[工]9		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	

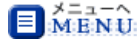


Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバスイ覧 > シラバス参照

Login User 本田 垂紀 『全学教育』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

参照URL

学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010A1	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	夙田 彰秀		
授業担当教員名(科目責任者)	夙田 彰秀		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	夙田 彰秀		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[工]7		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010A2	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	中村 聖三		
授業担当教員名(科目責任者)	中村 聖三		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中村 聖三		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[工]10		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など) ・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど) ・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど) ・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010A3	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	西田 渉		
授業担当教員名(科目責任者)	西田 渉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西田 渉		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[工]8		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010A4	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	坂本 麻衣子		
授業担当教員名(科目責任者)	坂本 麻衣子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	坂本 麻衣子		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]204		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

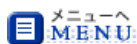


学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010A5	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	相樂 隆正		
授業担当教員名(科目責任者)	相樂 隆正		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	相樂 隆正		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[総]207		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など) ・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど) ・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど) ・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010A6	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	清水 康博		
授業担当教員名(科目責任者)	清水 康博		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	清水 康博		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[総]207		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

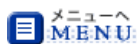


学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010A7	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	畠山 智充		
授業担当教員名(科目責任者)	畠山 智充		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	畠山 智充		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[総]108		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など) ・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど) ・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど) ・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

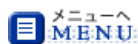


学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010A8	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	大貝 猛		
授業担当教員名(科目責任者)	大貝 猛		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大貝 猛		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[総]多目的ホール		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

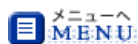


学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010A9	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	田邊 秀二		
授業担当教員名(科目責任者)	田邊 秀二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田邊 秀二		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[総]大講義室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010B0	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	鄭 国斌		
授業担当教員名(科目責任者)	鄭 国斌		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鄭 国斌		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[総]208		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none">・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など)・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど)・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど)・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010B1	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	田中 修司		
授業担当教員名(科目責任者)	田中 修司		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田中 修司		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[総]109		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など) ・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど) ・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど) ・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

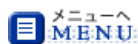


学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010B2	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	兵頭 健生		
授業担当教員名(科目責任者)	兵頭 健生		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	兵頭 健生		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]205		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者(研究者)としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	1) 30クラスで実施する。実質13~14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”、“社会”に関係するものとする。“社会”には、風俗、芸能、スポーツなどは含めない。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業内容	第1回 ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介 第2回 文献・資料の探し方、図書館ガイダンス 第3回 個人発表Ⅰ(発表5分+質問1分) 第4回 個人発表Ⅱ(発表5分+質問1分) 第5回 グループ分け(3~5名一組)、グループディスカッションに関する指導 第6回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅰ 第7回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅠ 第8回 グループ研究テーマに関する調査・資料収集Ⅱ 第9回 収集した資料等を基にしたグループディスカッションⅡ 第10回 プレゼンテーションに関する指導 第11回 プレゼンテーション資料の作成 第12回 プレゼンテーションの練習 第13回 プレゼンテーション大会予選(各クラスから1チームを選出) 第14回 プレゼンテーション大会決勝(各クラスから選ばれた15チームによる決勝) 第15回 レポート作成に関する指導		
キーワード	能動的学習, 論理的思考力, 倫理観, プレゼンテーション能力		

教科書・教材・参考書	適宜配布
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の取り組み 30%(課題探求のための計画の妥当性, 予習など) ・ディスカッションへの積極的参加 30% (発言しているか, コミュニケーションがとれているかなど) ・プレゼンテーション 20% (ストーリー性はあるか, 話し方は適切か, 図表が適切に配置されているかなど) ・レポート 20% (レポートの体裁となっているか, 文脈は正しいかなど)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010B3	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	田井村 明博		
授業担当教員名(科目責任者)	田井村 明博		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田井村 明博		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[環]341		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的方法または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。 ③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業内容	<p>概要 大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <p>第1回 担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介 第2回 専門教育科目の履修ガイダンス 第3回 環境科学へのいざない(講義) 第4回 資料収集ガイダンスの受講 第5回 グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義 第6回 取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション 第7回 テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画書の報告 第8回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第9回 中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討 第10回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第11回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第12回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第13回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第14回 最終報告会の実施(プレゼンテーションと質疑応答)、レポートの提出 第15回 総合討論会(講評、総括)</p>		

キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	専門科目への橋渡しの役割。科学的な思考方法、資料収集能力、コミュニケーション能力、自己表現能力を身につける。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



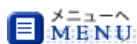
参照URL

学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010B4	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	中川 啓		
授業担当教員名(科目責任者)	中川 啓		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中川 啓		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[環]342		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。 ③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業内容	<p>概要 大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <p>第1回 担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介 第2回 専門教育科目の履修ガイダンス 第3回 環境科学へのいざない(講義) 第4回 資料収集ガイダンスの受講 第5回 グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義 第6回 取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション 第7回 テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画書の報告 第8回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第9回 中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討 第10回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第11回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第12回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第13回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第14回 最終報告会の実施(プレゼンテーションと質疑応答)、レポートの提出 第15回 総合討論会(講評、総括)</p>		

キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	専門科目への橋渡しの役割。科学的な思考方法、資料収集能力、コミュニケーション能力、自己表現能力を身につける。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010B5	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	飯間 雅文		
授業担当教員名(科目責任者)	飯間 雅文		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	飯間 雅文		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[環]441		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。 ③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業内容	<p>概要 大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <p>第1回 担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介 第2回 専門教育科目の履修ガイダンス 第3回 環境科学へのいざない(講義) 第4回 資料収集ガイダンスの受講 第5回 グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義 第6回 取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション 第7回 テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告 第8回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第9回 中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討 第10回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第11回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第12回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第13回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第14回 最終報告会の実施(プレゼンテーションと質疑応答)、レポートの提出 第15回 総合討論会(講評、総括)</p>		

キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	専門科目への橋渡しの役割。科学的な思考方法、資料収集能力、コミュニケーション能力、自己表現能力を身につける。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010B6	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	長江 真樹		
授業担当教員名(科目責任者)	長江 真樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	長江 真樹		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[環]442		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。 ③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業内容	<p>概要 大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <p>第1回 担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介 第2回 専門教育科目の履修ガイダンス 第3回 環境科学へのいざない(講義) 第4回 資料収集ガイダンスの受講 第5回 グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義 第6回 取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション 第7回 テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告 第8回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第9回 中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討 第10回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第11回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第12回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第13回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第14回 最終報告会の実施(プレゼンテーションと質疑応答)、レポートの提出 第15回 総合討論会(講評、総括)</p>		

キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	専門科目への橋渡しの役割。科学的な思考方法、資料収集能力、コミュニケーション能力、自己表現能力を身につける。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010B7	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	連 清吉		
授業担当教員名(科目責任者)	連 清吉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	連 清吉		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[環]貴重資料閲覧室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。 ③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業内容	<p>概要 大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <p>第1回 担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介 第2回 専門教育科目の履修ガイダンス 第3回 環境科学へのいざない(講義) 第4回 資料収集ガイダンスの受講 第5回 グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義 第6回 取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション 第7回 テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告 第8回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第9回 中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討 第10回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第11回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第12回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第13回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第14回 最終報告会の実施(プレゼンテーションと質疑応答)、レポートの提出 第15回 総合討論会(講評、総括)</p>		

キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	専門科目への橋渡しの役割。科学的な思考方法、資料収集能力、コミュニケーション能力、自己表現能力を身につける。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010B8	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	北村 美江		
授業担当教員名(科目責任者)	北村 美江		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	北村 美江		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[環]242		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。 ③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業内容	<p>概要 大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <p>第1回 担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介 第2回 専門教育科目の履修ガイダンス 第3回 環境科学へのいざない(講義) 第4回 資料収集ガイダンスの受講 第5回 グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義 第6回 取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション 第7回 テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告 第8回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第9回 中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討 第10回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第11回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第12回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第13回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第14回 最終報告会の実施(プレゼンテーションと質疑応答)、レポートの提出 第15回 総合討論会(講評、総括)</p>		

キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	専門科目への橋渡しの役割。科学的な思考方法、資料収集能力、コミュニケーション能力、自己表現能力を身につける。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010B9	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	朝倉 宏		
授業担当教員名(科目責任者)	朝倉 宏		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	朝倉 宏		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[環]341		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。 ③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業内容	<p>概要 大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <p>第1回 担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介 第2回 専門教育科目の履修ガイダンス 第3回 環境科学へのいざない(講義) 第4回 資料収集ガイダンスの受講 第5回 グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義 第6回 取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション 第7回 テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告 第8回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第9回 中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討 第10回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第11回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第12回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第13回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第14回 最終報告会の実施(プレゼンテーションと質疑応答)、レポートの提出 第15回 総合討論会(講評、総括)</p>		

キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	専門科目への橋渡しの役割。科学的な思考方法、資料収集能力、コミュニケーション能力、自己表現能力を身につける。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010C0	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	馬越 孝道		
授業担当教員名(科目責任者)	馬越 孝道		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	馬越 孝道		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[環]342		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的方法または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。 ③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業内容	<p>概要 大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <p>第1回 担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介 第2回 専門教育科目の履修ガイダンス 第3回 環境科学へのいざない(講義) 第4回 資料収集ガイダンスの受講 第5回 グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義 第6回 取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション 第7回 テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告 第8回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第9回 中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討 第10回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第11回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第12回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第13回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第14回 最終報告会の実施(プレゼンテーションと質疑応答)、レポートの提出 第15回 総合討論会(講評、総括)</p>		

キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	専門科目への橋渡しの役割。科学的な思考方法、資料収集能力、コミュニケーション能力、自己表現能力を身につける。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010C1	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	菅原 潤		
授業担当教員名(科目責任者)	菅原 潤		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	菅原 潤		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[環]自習室2		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。 ③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業内容	<p>概要 大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <p>第1回 担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介 第2回 専門教育科目の履修ガイダンス 第3回 環境科学へのいざない(講義) 第4回 資料収集ガイダンスの受講 第5回 グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義 第6回 取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション 第7回 テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告 第8回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第9回 中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討 第10回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第11回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第12回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第13回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第14回 最終報告会の実施(プレゼンテーションと質疑応答)、レポートの提出 第15回 総合討論会(講評、総括)</p>		

キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	専門科目への橋渡しの役割。科学的な思考方法、資料収集能力、コミュニケーション能力、自己表現能力を身につける。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	

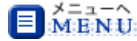


Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバスイ覧 > シラバス参照

Login User 本田 亜紀 『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010C2	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	正本 忍		
授業担当教員名(科目責任者)	正本 忍		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	正本 忍		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[環]フィールドリサーチ解析室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。 ③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業内容	<p>概要 大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <p>第1回 担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介 第2回 専門教育科目の履修ガイダンス 第3回 環境科学へのいざない(講義) 第4回 資料収集ガイダンスの受講 第5回 グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義 第6回 取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション 第7回 テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画書の報告 第8回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第9回 中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討 第10回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第11回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第12回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第13回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第14回 最終報告会の実施(プレゼンテーションと質疑応答)、レポートの提出 第15回 総合討論会(講評、総括)</p>		

キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	専門科目への橋渡しの役割。科学的な思考方法、資料収集能力、コミュニケーション能力、自己表現能力を身につける。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010C3	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	増田 研		
授業担当教員名(科目責任者)	増田 研		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	増田 研		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[環]地理情報解析室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。 ③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>概要 大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <p>第1回 担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介 第2回 専門教育科目の履修ガイダンス 第3回 環境科学へのいざない(講義) 第4回 資料収集ガイダンスの受講 第5回 グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義 第6回 取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション 第7回 テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画書の報告 第8回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第9回 中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討 第10回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第11回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第12回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第13回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第14回 最終報告会の実施(プレゼンテーションと質疑応答)、レポートの提出 第15回 総合討論会(講評、総括)</p>		

キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	専門科目への橋渡しの役割。科学的な思考方法、資料収集能力、コミュニケーション能力、自己表現能力を身につける。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010C4	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	葉柳 和則		
授業担当教員名(科目責任者)	葉柳 和則		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	葉柳 和則		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[環]環境マネジメント情報室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。 ③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。 		
授業内容	<p>概要 大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <p>第1回 担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介 第2回 専門教育科目の履修ガイダンス 第3回 環境科学へのいざない(講義) 第4回 資料収集ガイダンスの受講 第5回 グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義 第6回 取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション 第7回 テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画書の報告 第8回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第9回 中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討 第10回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第11回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第12回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第13回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第14回 最終報告会の実施(プレゼンテーションと質疑応答)、レポートの提出 第15回 総合討論会(講評、総括)</p>		

キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	専門科目への橋渡しの役割。科学的な思考方法、資料収集能力、コミュニケーション能力、自己表現能力を身につける。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバスイ覧 > シラバス参照

Login User 本田 垂紀 『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1798秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010C5	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	池田 幸恵		
授業担当教員名(科目責任者)	池田 幸恵		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	池田 幸恵		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[環]貴重資料閲覧室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー			
授業のねらい	<p>新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。</p>		
授業到達目標	<p>① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。 ③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。</p>		
授業内容	<p>概要 大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <p>第1回 担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介 第2回 専門教育科目の履修ガイダンス 第3回 環境科学へのいざない(講義) 第4回 資料収集ガイダンスの受講 第5回 グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義 第6回 取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション 第7回 テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告 第8回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第9回 中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討 第10回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第11回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第12回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第13回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第14回 最終報告会の実施(プレゼンテーションと質疑応答)、レポートの提出 第15回 総合討論会(講評、総括)</p>		

キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	専門科目への橋渡しの役割。科学的な思考方法、資料収集能力、コミュニケーション能力、自己表現能力を身につける。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010C6	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	深見 聡		
授業担当教員名(科目責任者)	深見 聡		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	深見 聡		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[環]フィールドリサーチ準備室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。 ③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業内容	<p>概要 大学および学部ガイダンス、班別作業、テーマ決定、調査、プレゼンテーション、レポート作成</p> <p>第1回 担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介 第2回 専門教育科目の履修ガイダンス 第3回 環境科学へのいざない(講義) 第4回 資料収集ガイダンスの受講 第5回 グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義 第6回 取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション 第7回 テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画書の報告 第8回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第9回 中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討 第10回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第11回 グループディスカッション、進捗状況・経過報告 第12回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第13回 レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成 第14回 最終報告会の実施(プレゼンテーションと質疑応答)、レポートの提出 第15回 総合討論会(講評、総括)</p>		

キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	専門科目への橋渡しの役割。科学的な思考方法、資料収集能力、コミュニケーション能力、自己表現能力を身につける。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

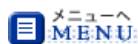


学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010C9	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	菅 向志郎		
授業担当教員名(科目責任者)	菅 向志郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	菅 向志郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[水]3		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス	初回に案内		
担当教員研究室	初回に案内		
担当教員TEL	初回に案内		
担当教員オフィスアワー	初回に案内		
授業のねらい	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大教センター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>学生が自主的に学習をすすめることができるよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養セミナーのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。</p> <p>第1回: ガイダンス: モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介 第2回: ジェネリック・スキルの理解: 教養教育科目と英語 第3回: 担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎 第4回: レポートの作成と提出 第5回: 情報リテラシー(1): 情報を冷静に扱う(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第6回: 情報リテラシー(2): 客観的な分析、引用、盗作・盗用(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第7回: 資料の収集ガイダンス(附属図書館) 第8回: アクティブラーニングで学ぶコツ(担当: 山地弘起准教授(大教センター)) 第9回~第15回: クラス別課題学習(資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を続けるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む)</p> <p>※ 進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。</p>		
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集		
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。		
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養セミナーに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			

学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010C8	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	萩原 篤志		
授業担当教員名(科目責任者)	萩原 篤志		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	萩原 篤志		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[水]ゼミ室		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス	初回に案内		
担当教員研究室	初回に案内		
担当教員TEL	初回に案内		
担当教員オフィスアワー	初回に案内		
授業のねらい	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大教センター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>学生が自主的に学習をすすめることができるよう、討論、実習、実地調査など体験的双方的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養セミナーのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。</p> <p>第1回: ガイダンス: モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介 第2回: ジェネリック・スキルの理解: 教養教育科目と英語 第3回: 担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎 第4回: レポートの作成と提出 第5回: 情報リテラシー(1): 情報を冷静に扱う(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第6回: 情報リテラシー(2): 客観的な分析、引用、盗作・盗用(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第7回: 資料の収集ガイダンス(附属図書館) 第8回: アクティブラーニングで学ぶコツ(担当: 山地弘起准教授(大教センター)) 第9回~第15回: クラス別課題学習(資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を続けるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む)</p> <p>※ 進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。</p>		
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集		
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。		
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養セミナーに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			

学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010C9	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	菅 向志郎		
授業担当教員名(科目責任者)	菅 向志郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	菅 向志郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[水]3		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス	初回に案内		
担当教員研究室	初回に案内		
担当教員TEL	初回に案内		
担当教員オフィスアワー	初回に案内		
授業のねらい	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大教センター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>学生が自主的に学習をすすめることができるよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養セミナーのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。</p> <p>第1回: ガイダンス: モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介 第2回: ジェネリック・スキルの理解: 教養教育科目と英語 第3回: 担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎 第4回: レポートの作成と提出 第5回: 情報リテラシー(1): 情報を冷静に扱う(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第6回: 情報リテラシー(2): 客観的な分析、引用、盗作・盗用(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第7回: 資料の収集ガイダンス(附属図書館) 第8回: アクティブラーニングで学ぶコツ(担当: 山地弘起准教授(大教センター)) 第9回~第15回: クラス別課題学習(資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を続けるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む)</p> <p>※ 進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。</p>		
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集		
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。		
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養セミナーに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			

学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010D0	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	阪倉 良孝		
授業担当教員名(科目責任者)	阪倉 良孝		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	阪倉 良孝		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]学部間い合わせのこと		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス	初回に案内		
担当教員研究室	初回に案内		
担当教員TEL	初回に案内		
担当教員オフィスマワー	初回に案内		
授業のねらい	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大教センター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>学生が自主的に学習をすすめることができるよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養セミナーのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。</p> <p>第1回: ガイダンス: モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介 第2回: ジェネリック・スキルの理解: 教養教育科目と英語 第3回: 担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎 第4回: レポートの作成と提出 第5回: 情報リテラシー(1): 情報を冷静に扱う(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第6回: 情報リテラシー(2): 客観的な分析、引用、盗作・盗用(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第7回: 資料の収集ガイダンス(附属図書館) 第8回: アクティブラーニングで学ぶコツ(担当: 山地弘起准教授(大教センター)) 第9回~第15回: クラス別課題学習(資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を続けるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む)</p> <p>※ 進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。</p>		
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集		
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。		
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養セミナーに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			

学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010D1	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	市川 寿		
授業担当教員名(科目責任者)	市川 寿		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	市川 寿		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]当該研究室		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス	初回に案内		
担当教員研究室	初回に案内		
担当教員TEL	初回に案内		
担当教員オフィスマワー	初回に案内		
授業のねらい	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大教センター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>学生が自主的に学習をすすめることができるよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養セミナーのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。</p> <p>第1回: ガイダンス: モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介 第2回: ジェネリック・スキルの理解: 教養教育科目と英語 第3回: 担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎 第4回: レポートの作成と提出 第5回: 情報リテラシー(1): 情報を冷静に扱う(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第6回: 情報リテラシー(2): 客観的な分析、引用、盗作・盗用(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第7回: 資料の収集ガイダンス(附属図書館) 第8回: アクティブラーニングで学ぶコツ(担当: 山地弘起准教授(大教センター)) 第9回~第15回: クラス別課題学習(資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を続けるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む)</p> <p>※ 進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。</p>		
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集		
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。		
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養セミナーに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			

学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	

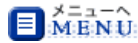


Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバスイ覧 > シラバス参照

Login User 本田 垂紀 『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

参照URL

学期	前期	曜日・校時	月5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010D2	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	高谷 智裕		
授業担当教員名(科目責任者)	高谷 智裕		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高谷 智裕		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]当該研究室		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス	初回に案内		
担当教員研究室	初回に案内		
担当教員TEL	初回に案内		
担当教員オフィスマワー	初回に案内		
授業のねらい	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大教センター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>学生が自主的に学習をすすめることができるよう、討論、実習、実地調査など体験的双方的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養セミナーのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。</p> <p>第1回: ガイダンス: モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介 第2回: ジェネリック・スキルの理解: 教養教育科目と英語 第3回: 担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎 第4回: レポートの作成と提出 第5回: 情報リテラシー(1): 情報を冷静に扱う(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第6回: 情報リテラシー(2): 客観的な分析、引用、盗作・盗用(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第7回: 資料の収集ガイダンス(附属図書館) 第8回: アクティブラーニングで学ぶコツ(担当: 山地弘起准教授(大教センター)) 第9回~第15回: クラス別課題学習(資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を続けるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む)</p> <p>※ 進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。</p>		
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集		
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。		
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養セミナーに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			

学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010D3	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	河邊 玲		
授業担当教員名(科目責任者)	河邊 玲		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	河邊 玲		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[水]1		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス	初回に案内		
担当教員研究室	初回に案内		
担当教員TEL	初回に案内		
担当教員オフィスアワー	初回に案内		
授業のねらい	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大教センター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>学生が自主的に学習をすすめることができるよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養セミナーのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。</p> <p>第1回: ガイダンス: モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介 第2回: ジェネリック・スキルの理解: 教養教育科目と英語 第3回: 担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎 第4回: レポートの作成と提出 第5回: 情報リテラシー(1): 情報を冷静に扱う(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第6回: 情報リテラシー(2): 客観的な分析、引用、盗作・盗用(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第7回: 資料の収集ガイダンス(附属図書館) 第8回: アクティブラーニングで学ぶコツ(担当: 山地弘起准教授(大教センター)) 第9回~第15回: クラス別課題学習(資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を続けるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む)</p> <p>※ 進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。</p>		
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集		
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。		
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養セミナーに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			

学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010D4	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	井上 徹志		
授業担当教員名(科目責任者)	井上 徹志		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井上 徹志		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[水]4		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス	初回に案内		
担当教員研究室	初回に案内		
担当教員TEL	初回に案内		
担当教員オフィスアワー	初回に案内		
授業のねらい	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大教センター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>学生が自主的に学習をすすめることができるよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養セミナーのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。</p> <p>第1回: ガイダンス: モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介 第2回: ジェネリック・スキルの理解: 教養教育科目と英語 第3回: 担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎 第4回: レポートの作成と提出 第5回: 情報リテラシー(1): 情報を冷静に扱う(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第6回: 情報リテラシー(2): 客観的な分析、引用、盗作・盗用(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第7回: 資料の収集ガイダンス(附属図書館) 第8回: アクティブラーニングで学ぶコツ(担当: 山地弘起准教授(大教センター)) 第9回~第15回: クラス別課題学習(資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を続けるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む)</p> <p>※ 進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。</p>		
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集		
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。		
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養セミナーに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			

学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010D5	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	和田 実		
授業担当教員名(科目責任者)	和田 実		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	和田 実		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]学部間い合わせのこと		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス	初回に案内		
担当教員研究室	初回に案内		
担当教員TEL	初回に案内		
担当教員オフィスパワー	初回に案内		
授業のねらい	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大教センター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>学生が自主的に学習をすすめることができるよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養セミナーのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。</p> <p>第1回: ガイダンス: モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介 第2回: ジェネリック・スキルの理解: 教養教育科目と英語 第3回: 担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎 第4回: レポートの作成と提出 第5回: 情報リテラシー(1): 情報を冷静に扱う(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第6回: 情報リテラシー(2): 客観的な分析、引用、盗作・盗用(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第7回: 資料の収集ガイダンス(附属図書館) 第8回: アクティブラーニングで学ぶコツ(担当: 山地弘起准教授(大教センター)) 第9回~第15回: クラス別課題学習(資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を続けるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む)</p> <p>※ 進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。</p>		
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集		
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。		
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養セミナーに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			

学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	

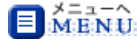


Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバスイ覧 > シラバス参照

Login User 本田 垂紀 『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

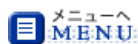
参照URL

学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010D5	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	和田 実		
授業担当教員名(科目責任者)	和田 実		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	和田 実		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]学部間い合わせのこと		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス	初回に案内		
担当教員研究室	初回に案内		
担当教員TEL	初回に案内		
担当教員オフィスパワー	初回に案内		
授業のねらい	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大教センター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>学生が自主的に学習をすすめることができるよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養セミナーのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。</p> <p>第1回: ガイダンス: モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介 第2回: ジェネリック・スキルの理解: 教養教育科目と英語 第3回: 担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎 第4回: レポートの作成と提出 第5回: 情報リテラシー(1): 情報を冷静に扱う(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第6回: 情報リテラシー(2): 客観的な分析、引用、盗作・盗用(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第7回: 資料の収集ガイダンス(附属図書館) 第8回: アクティブラーニングで学ぶコツ(担当: 山地弘起准教授(大教センター)) 第9回~第15回: クラス別課題学習(資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を続けるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む)</p> <p>※ 進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。</p>		
キーワード	プレゼンテーション、自己表現力、コミュニケーション、情報・資料収集		
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。		
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養セミナーに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			

学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010D7	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	梅澤 有		
授業担当教員名(科目責任者)	梅澤 有		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	梅澤 有		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]学部間い合わせのこと		
対象学生(クラス等)	1年次		
担当教員Eメールアドレス	初回に案内		
担当教員研究室	初回に案内		
担当教員TEL	初回に案内		
担当教員オフィスアワー	初回に案内		
授業のねらい	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大教センター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>学生が自主的に学習をすすめることができるよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養セミナーのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。</p> <p>第1回: ガイダンス: モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介 第2回: ジェネリック・スキルの理解: 教養教育科目と英語 第3回: 担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎 第4回: レポートの作成と提出 第5回: 情報リテラシー(1): 情報を冷静に扱う(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第6回: 情報リテラシー(2): 客観的な分析、引用、盗作・盗用(担当: 高橋正克教授(大教センター)) 第7回: 資料の収集ガイダンス(附属図書館) 第8回: アクティブラーニングで学ぶコツ(担当: 山地弘起准教授(大教センター)) 第9回~第15回: クラス別課題学習(資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を続けるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む)</p> <p>※ 進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。</p>		
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集		
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。		
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養セミナーに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			

学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	

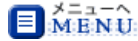


Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバスイ覧 > シラバス参照

Login User 本田 亜紀 『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1797秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」

シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010E3	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部保健学科)		
編集担当教員	中尾 優子		
授業担当教員名(科目責任者)	中尾 優子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中尾 優子		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	1) 大学生としての自主的な学習能力を習得する。 2) 医療従事者として必要なコミュニケーション能力を習得する。 3) 看護職・理学療法士・作業療法士としての役割、機能について理解する。		
授業方法(学習指導法)	Part1:看護・理学・作業療法学専攻混成メンバーによるグループワークを通じた学習を行い、まとめを行う。 Part2:看護・理学・作業療法学専攻それぞれのグループで各専攻毎の課題学習を行う。 専攻別に発表会を開催し、討論を行う。		
授業到達目標	1. 学習テーマの課題遂行を通して、問題提起、情報収集、論理的考察・ディスカッション、プレゼンテーションのStudy Skill(基礎的な学習技能)を習得する。 2. 学生相互および学生と教員間のコミュニケーションを密に行うことで、医療従事者として必要なマナーおよびコミュニケーション能力を習得する。 3. 看護職・理学療法士・作業療法士の役割、機能について討論することで、今後の大学での学習活動を円滑に進めることができる。		
授業内容	第1回 4/10教養セミナーガイダンス①:101教室、情報ガイダンス(個人情報保護のために) 情報メディア基盤センター上繁先生 第2回 4/17資料収集ガイダンス(図書館職員):101教室 (5/8,15は入門科目病院実習のため担当教員ごとに別の日時に授業時間を設定する) 第3回 4/24 教養セミナーガイダンス②:101教室 メンバー紹介、担当教員紹介 第4~7回 課題に沿ってグループディスカッション(10Gグループで指定のチュートリアル室にて) メンバーは看護・理学・作業療法学専攻混成チーム 第8回 グループワークのまとめ 6/12 第9~15回 各専攻別グループに分かれて学習 授業最終日にそれぞれの専攻で発表会を計画する。		

キーワード	学習能力、コミュニケーション、
教科書・教材・参考書	特になし
成績評価の方法・基準等	授業への貢献度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバスイ覧 > シラバス参照

Login User 本田 亜紀 『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1798秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010E4	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部保健学科)		
編集担当教員	田中 悟郎		
授業担当教員名(科目責任者)	田中 悟郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田中 悟郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	1)大学生としての自主的な学習能力を習得する。 2)医療従事者として必要なコミュニケーション能力を習得する。 3)看護職・理学療法士・作業療法士としての役割、機能について理解する。		
授業方法(学習指導法)	Part1:看護・理学・作業療法学専攻混成メンバーによるグループワークを通じた学習を行い、まとめを行う。 Part2:看護・理学・作業療法学専攻それぞれのグループで各専攻毎の課題学習を行う。 専攻別に発表会を開催し、討論を行う。		
授業到達目標	1. 学習テーマの課題遂行を通して、問題提起、情報収集、論理的考察・ディスカッション、プレゼンテーションのStudy Skill(基礎的な学習技能)を習得する。 2. 学生相互および学生と教員間のコミュニケーションを密に行うことで、医療従事者として必要なマナーおよびコミュニケーション能力を習得する。 3. 看護職・理学療法士・作業療法士の役割、機能について討論することで、今後の大学での学習活動を円滑に進めることができる。		
授業内容	第1回 4/10教養セミナーガイダンス①:101教室、情報ガイダンス(個人情報保護のために) 情報メディア基盤センター上繁先生 第2回 4/17資料収集ガイダンス(図書館職員):101教室 (5/8,15は入門科目病院実習のため担当教員ごとに別の日時に授業時間を設定する) 第3回 4/24 教養セミナーガイダンス②:101教室 メンバー紹介、担当教員紹介 第4～7回 課題に沿ってグループディスカッション(10Gグループで指定のチュートリアル室にて) メンバーは看護・理学・作業療法学専攻混成チーム 第8回 グループワークのまとめ 6/12 第9～15回 各専攻別グループに分かれて学習 授業最終日にそれぞれの専攻で発表会を計画する。		

キーワード	学習能力、コミュニケーション、
教科書・教材・参考書	特になし
成績評価の方法・基準等	授業への貢献度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201205600010E5	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部保健学科)		
編集担当教員	井口 茂		
授業担当教員名(科目責任者)	井口 茂		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井口 茂		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	1) 大学生としての自主的な学習能力を習得する。 2) 医療従事者として必要なコミュニケーション能力を習得する。 3) 看護職・理学療法士・作業療法士としての役割、機能について理解する。		
授業方法(学習指導法)	Part1:看護・理学・作業療法学専攻混成メンバーによるグループワークを通じた学習を行い、まとめを行う。 Part2:看護・理学・作業療法学専攻それぞれのグループで各専攻毎の課題学習を行う。 専攻別に発表会を開催し、討論を行う。		
授業到達目標	1. 学習テーマの課題遂行を通して、問題提起、情報収集、論理的考察・ディスカッション、プレゼンテーションのStudy Skill(基礎的な学習技能)を習得する。 2. 学生相互および学生と教員間のコミュニケーションを密に行うことで、医療従事者として必要なマナーおよびコミュニケーション能力を習得する。 3. 看護職・理学療法士・作業療法士の役割、機能について討論することで、今後の大学での学習活動を円滑に進めることができる。		
授業内容	第1回 4/10教養セミナーガイダンス①:101教室、情報ガイダンス(個人情報保護のために) 情報メディア基盤センター上繁先生 第2回 4/17資料収集ガイダンス(図書館職員):101教室 (5/8,15は入門科目病院実習のため担当教員ごとに別の日時に授業時間を設定する) 第3回 4/24 教養セミナーガイダンス②:101教室 メンバー紹介、担当教員紹介 第4~7回 課題に沿ってグループディスカッション(10Gグループで指定のチュートリアル室にて) メンバーは看護・理学・作業療法学専攻混成チーム 第8回 グループワークのまとめ 6/12 第9~15回 各専攻別グループに分かれて学習 授業最終日にそれぞれの専攻で発表会を計画する。		

キーワード	学習能力、コミュニケーション、
教科書・教材・参考書	特になし
成績評価の方法・基準等	授業への貢献度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.